

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づく適切かつ丁寧な支援の提供	子供の特性や保護者のニーズを客観的に分析し、ガイドラインに沿った本人・家族・移行支援を含む具体的な「児童発達支援計画」を作成しています。 。この計画に沿って日々の支援を行い、保護者へも内容を丁寧に説明して同意を得るプロセスを徹底しています。 。	支援の質を維持するため、日々の活動プログラムが固定化されないよう常に工夫を凝らし、子供の発達状況に応じた柔軟なプログラム構成を継続します。 。
2	保護者との緊密な連携と共感的な家族支援	日頃から子供の健康や発達状況を伝え合い、共通理解を深める努力をしています。 。また、ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムの実施や、定期的な面談を通じて子育てに関する助言を行うなど、保護者に寄り添った支援を意識しています	家族からの相談や申し入れに対して、より迅速かつ適切に対応できる体制をさらに周知し、保護者がいつでも安心して相談できる環境を強化します。 。
3	子供が安心して楽しめる構造化された療育環境	子供が次に何をすべきか理解しやすいよう生活空間を構造化し、清潔で心地よい環境を整えています。 。この結果、子供たちが安心感を持って楽しみながら通所でできおり、高い満足度につながっています。 。	専門性の高い支援を継続するため、職員の適切な配置と活動スペースの十分な確保を維持し、障害特性に応じたバリアフリー化や情報伝達への配慮をさらに徹底します

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害時等に向けた訓練の周知と実践	避難訓練や救出訓練などの実施について、一部の保護者から十分な理解や確認が得られていない状況があります。 。マニュアルの策定はされていますが、実際の訓練を通じた周知が課題となっています。 。	災害発生を想定した定期的な訓練の実施頻度を見直すとともに、安全確保のための計画や訓練の結果を保護者へより積極的に発信し、安心感の向上を図ります。 。
2	地域社会や外部機関との交流機会の不足	保育所、幼稚園、認定こども園等との交流や、地域の中で他の子供と活動する機会が十分に確保できていないことが課題です。 。外部機関との連携調整にさらなる注力が必要です。	地域社会の一員として、外部の子供たちと触れ合える具体的な交流イベントを計画的に取り入れ、社会性を育む機会を意図的に創出します。 。
3	保護者同士の交流および兄弟への支援体制	父母の会の活動支援や保護者同士の交流の場、また兄弟向けのイベント開催などの「家族全体への支援」が、保護者の期待に対して十分に行き届いていない可能性があります	保護者同士が悩みや情報を共有できるネットワーク作りを支援するほか、兄弟を対象としたイベントを企画するなど、家族支援の幅を広げる取組を検討します